

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
1. 教育に関する事項 (1) 優秀な入学者確保 ①入学志願者増加に繋がる効果的な広報を実施するための全学的体制を構築する。	●地域の中学校長会等との連携 ○呉市教育委員会と連携した事業を進めるとともに、地域の中学校校長会等との連携を深め、高等教育機関としての呉高専の認知度を上げる。	教務専事 専攻科長	○年度初めの呉市校長会において本校の公開講座、出前授業等の説明を行った。 ○運営顧問会議(7/26)を開催し、中学校長に参加していただき、本校の説明を行い、提言を求めた。 ○呉市教育委員会との以下の連携事業を継続的に実施した。 ・呉市全小中学校への本校主催「びっくりワクワクサイエンスショー」広報活動 ・呉市教育委員会主催大和ミュージアム科学イベントなどへの協力(5回実施) ・次年度本校主催公開講座への呉市教育委員会後援(決定) ・次年度本校主催「びっくりワクワクサイエンスショー」への呉市教育委員会後援検討	Ⅲ	有
	●入学説明会, 体験入学, オープンキャンパス等の実施 ○学校見学会, 入試説明会, および米子高専・広島商船高専と合同で高専説明会を計画・実施する。		○呉市レングス通り(6/16), 福山市ショッピングモール(6/23), 広島市広島駅前地下広場(9/22)において「おもしろ科学体験フェスティバル」を開催し、多数の参加者があった。なお、福山会場は米子高専と広島商船高専との3高専合同開催で実施した。 ○第1回学校見学会(8/4)を開催し615名(昨年度より26名増)の参加者があった。 ○入試説明会(10月～11月, 5会場)を行い、289名(昨年度より7名減)の参加者があり、第2回学校見学会(11/2)を開催し、180名(昨年度より46名減)の参加者があった。 ○学校紹介, 学科紹介, クラブ紹介パネルの新規作成および更新を行った。	Ⅲ	有
	●女子学生の志願者確保 ○女子中学生や保護者に、高専における学校生活, 女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。その際、女子学生を出身中学校へ派遣することを実施する。		○第1回学校見学会(8/4)において、昨年度に引き続き女子中学生を対象とする「女子中学生なんでも相談室」を開催した。 ○広島県内の全中学校へ中学校訪問の際に高専女子百科Jr. (呉高専版)を配付した。 ○女子学生が出身中学校を訪問して呉高専の説明とPRを行った。	Ⅲ	有
	●効果的なPR活動 ○中学校訪問における訪問先, 訪問時期, 訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。また、呉高専を紹介するホームページの充実を図る。		○相手中学校に可能な範囲(対応教諭や対応時間等)で対応していただく方式で、広島県の全中学校を訪問した。 ○呉高専日誌などホームページの充実を図り、内容の更新をその都度行った。 ○学校紹介, 学科紹介, イベント展示用クラブ紹介パネル等の新規作成および更新を行った。 ○教育センター棟入口にショールームを設置し、学生・教職員の活躍した事例の展示・PRを行った。	Ⅲ	有
	●中学生及び保護者を対象としたパンフレットの作成・配布 ○中学生とその保護者に、中学の早い時期から進路の有利性などの高専をアピールできる内容のパンフレット等を作成し、低学年から配布する。		○昨年度内容を一新した(2種類あったものを1つにまとめた)学校紹介の更新を行った。 ○中学1年生にも学校案内を配布した。 ○広島県以外の中学校へも継続して案内資料を送付した。 ○おもしろ科学体験フェスティバルなどのイベントにおいてパンフレット等を積極的に配布した。	Ⅲ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
	<p>●入学志願者増加対策</p> <p>○各種のアンケートや中学校訪問時に聞き取った中学校側の意見等を分析し、入学志願者増加対策を多方面にわたって組織的に検討する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○広島県内の中学校238校を訪問し、本校の説明とPRを行った。</p> <p>○学校見学会や入学生へのアンケート等で希望の多かったクラブ紹介を学校見学会で行った。</p> <p>○学校見学会や入学生へのアンケート等で本校を知るきっかけとなっていた「おもしろ科学体験フェスティバル」を広島市の広島駅地下広場で開催し、多数の参加者に本校の説明とPRを行った。</p>	Ⅲ	有
②他教育機関等と連携して高専教育及び理工系分野の魅力を社会に発信する。	<p>●理工系分野の魅力の発信</p> <p>○呉市教育委員会、アカデミア(阿賀学園地域教育連携協議会)、広島テクノショップランチを利用した事業などを通して、理工系分野の魅力を幅広く紹介する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○広島文化学園大学、広島商船高専、呉市などと共同で地域学「呉・芸南学」を開講した。</p> <p>○広島テクノショップランチである広島経済大学立町キャンパスにおいて「キャリア開発キャンプ2013」を開催した。(8/31, 9/1)</p> <p>○アカデミア(阿賀学園地域教育連携協議会)文化発表会(12/14)に参加し、本校の活動を発表した。</p>	Ⅲ	有
④新たな入学者選抜方法を検討する。	<p>●高専教育にふさわしい人材の確保に向けた入試方法の改善</p> <p>○入学者の追跡調査を実施し、入試方法の改善を検討する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○本科の推薦入学選抜における推薦書の書式を変更するとともに、調査書の「活動の記録」の評価方法について検討を行った。</p> <p>○専攻科の入学試験において、英語は平成27年度入試においては外部試験を併用し、平成28年度入試から外部試験だけを利用することとした。</p>	Ⅲ	有
	<p>●入学者の学力水準や入学志願者の維持</p> <p>○各種の広報活動や学校紹介イベントなどにより入学志願者の増加を図り、これにより学力水準の維持・向上に努める。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○各種の広報活動において本校の特徴および学力レベルを紹介し、アドミッションポリシーに沿う入学志願者の増加を図った。</p>	Ⅲ	有
(2)教育課程の編成等 ①中教審答申の趣旨及び高専機構の中期計画に呼応し、本科と専攻科の新たな教育課程の編成等を検討する。	<p>●地域や学生のニーズに応じた学科編成、学科の大括り化、コース制の導入</p> <p>○複合教育・総合教育を念頭に置き、JABEEプログラムの1本化および専攻科の大括り化を検討する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○教育改革検討プロジェクトを設置し、学科及び専攻科の統合・再編、養成しようとする技術者像と修得すべき技術、その具体的到達目標等について検討した。</p> <p>○学科、専攻ごとに今後の学科・専攻の在り方に関する検討を行うとともに、学校全体での学内ヒアリングを3回開催し、本校が目指すコンセプトおよびそれを達成するためのプロセスについて検討した。</p>	Ⅲ	有
	<p>●地域や産業界のニーズに応じたカリキュラムの改訂</p> <p>○モデルコアカリキュラムと整合をとるとともに、地域や産業界のニーズにも応じた教育内容となるよう、本科および専攻科におけるカリキュラムを改訂する。特に、エンジニアリングデザイン教育については内容を大きく見直し、再構築する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○教育改革検討プロジェクトを設置し、学科と専攻で修得する技術、ならびに具体的到達目標について検討するとともに、教育方法および教育改善について検討を行い、地域の課題を取り上げたPBLの実施など学生が自ら学ぶ教育を充実することとした。</p>	Ⅲ	有
	<p>●学習到達度試験の継続実施</p> <p>○学習到達度試験やTOEICを通して基礎学力の定着度を検証し、これらも活用することにより、基礎学力の充実を図る。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○英語統一試験を実施した。(12/3)</p> <p>○数学と物理の学習到達度試験を実施した。(1/14)</p> <p>○数学と英語については、定期試験の成績不振者を対象とした補習授業「寺子屋」を開講し、基礎学力の向上を図った。</p>	Ⅲ	有
	<p>●卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価の実施</p> <p>○学生による授業評価アンケート、教育環境アンケート、保護者による学校評価アンケートを実施する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○保護者アンケートを実施した。(5/9, 10/22)</p> <p>○学生に対し授業評価アンケートを実施した。(学期末)</p> <p>○学生に対し「良い先生」に関するアンケートを実施した。(前期末)</p>	Ⅲ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
②「ものづくり」, 教養教育及びPBLを重視した教育実施方法の改善策を検討し, 順次, 実施する。	●学生の意欲向上や高等専門学校のイメージの向上に資する全国的な競技会やコンテストへの参加 ○ものづくりに関連した全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励・支援する。	教務主事 専攻科長	○ロボットコンテスト, プログラミングコンテスト, デザインコンテスト, プレゼンテーションコンテストの中国大会へ参加した。デザインコンテストでは全国大会に出場した。	Ⅲ	有
③持続発展教育の観点を踏まえた新授業科目の導入や既存科目のシラバスの改善を行う。	●ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動等の実施 ○キャリア開発セミナー等を通じてボランティア活動の意義を説明し, イベントへの参加を積極的に呼び掛ける。	教務主事 専攻科長	○キャリア開発セミナーを開講し, ボランティアプランコンテストやビジネスプランコンテストを実施するとともに, 多くの学生が自主的にボランティア活動を企画・実施し, 地域から高い評価を得た。(1/26) ○アガデミアの一環として, 津波避難訓練及びクリーンアップ・ザ阿賀を企画したが, 台風のため実施できなかった。(10/9)	Ⅱ	有
④外部資金による教育関連特別プロジェクトの成果を継承し, 発展させる。	●地域と協働で科学技術関連プロジェクトの実施 ○各プロジェクトを継続的に発展させるため, サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)および科学技術コミュニケーション事業を, 地域の中学, 高校などと連携しつつ実施するための可能性を検討。 ○地(知)の拠点整備事業(COC事業)に公募し, 呉地域の活性化に全校あげて取り組む。	副校長 (総務企画)	○JSPのSPP事業に関して阿賀中及び市立呉高校教諭と検討した結果, 今年度中学, 高校両校でSPPを希望している生徒が少なく, 実施困難であるとの結論に至った。なおその代わりとして, 近隣の小中高生徒を対象にした「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施した。本事業へは100名の参加があり, 盛況裏に実施することができた。(11/3)	Ⅲ	有
(3) 優秀な教員の確保 ①教員人事において, 教育力と人間力及び教育・社会貢献を支える研究力を評価するとともに, 高専機構の定めた学位取得者比率基準に合致する状況を維持する。	●多様な背景を持つ教員の確保 ○公募などにより多様な背景を持つ教員を採用する。 ●専門科目(理系の一般科目を含む)で博士修得者や職業上の高度の資格を持つ者及び一般科目で修士修得者や高度な実務能力や教育能力を有する者の採用 ○公募文書の書き方(特に応募資格や模擬授業のやり方)を工夫し, 高専において熱意をもって教育・研究, 学生指導等に従事できる優秀な教員を求める。 ○面接選考では, 本校の学生の能力を向上させるため, どのように教育を行い, 授業を展開するかについての模擬授業により, 優秀な教育能力を有するかどうかを見極める。	教務主事 専攻科長	○教員公募(機械工学分野)により, 他大学で三次元CAD, CAMの技師経験を持つ教員1名を採用した。 ○教員公募(人文社会系分野(体育))により, 他大学での教員経験を有し, 広島県内のサッカークラブのコーチを兼任している教員1名の採用を決定した。 ○公募文書の書き方を工夫し, 人文社会系分野(体育, 国語)の2件の教員公募を行った結果, 体育11名, 国語12名の応募者があり, いずれの応募書類でも高専教育・研究・学生指導に熱意もつ応募者であることが確認された。 ○上記の教員選考において面接を行い, 応募書類を踏まえ本校において教育・研究・学生指導をどのように展開するかプレゼンテーションを行なった結果, 優秀な教育能力を有する2名(体育1名, 国語1名)を新規採用した。	Ⅲ	有
②女性教員, 外国人教員を積極的に採用する。	●女性教員の比率向上, 支援策及び働きやすい職場環境の整備 ○公募による選考の際, 同程度の能力であれば女性を優先的に採用するよう努める。また, 公募の資格条件にその旨を表記する。 ○女性教職員のための環境整備を引き続き行う。	教務主事 専攻科長	○教員公募(人文社会系分野(国語))の結果, 応募のあった12名(男性6名・女性6名)のうち, 女性応募者1名を新規採用した。	Ⅲ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
③高専・技科大間の教員交流制度等を活用し、他機関勤務経験を通じた教員の能力向上策を推進する。	<p>●教員の力量、学校全体の教育力を向上させるため、高等学校、大学、企業等との人事交流の促進</p> <p>○高専・両技科大間教員交流制度により、豊田高専へ1名の教員を派遣する。</p> <p>●国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加</p> <p>○教育教員研究集会など、各種の研究會・研修會・国際学会へ多くの教員が計画的に参加できるよう奨励する。</p>	教務主事 専攻科長	<p>○高専・両技科大教員交流制度により、豊田高専へ1名の教員を派遣した。</p> <p>○校長裁量経費による経費負担を行うことで国際学会への参加を奨励し、5名の教員がこの経費を利用して国際学会に参加した。</p> <p>○前期では、各種研修會等へ延べ22名の教員が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任教員研修會:8名 ・クラス経営・生活指導研修會:2名 ・管理職研修:1名 ・全国高専教育フォーラム:10名 <p>○後期では、各種研修會等へ延べ7名の教員が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語授業講義力強化プログラム:1名 ・「英語授業講義力強化プログラム」教育評価研修:2名 ・高専・技科大連携教員研究集会:1名 ・中国地区高等専門学校教員研究集会:2名 ・中国地区国立高等専門学校教員研修:1名 	Ⅲ	無
④教育活動や生活指導などに関する教員表彰を行う。	<p>●教育活動や生活指導などに関する教員表彰</p> <p>○教員顕彰に係る学生アンケートを実施する。</p> <p>○教員顕彰に係る学生アンケート、教員の自己評価、教員の相互評価などの結果を総合的に判断し、3名の教員を校長表彰し、内2名を国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。</p>	教務主事 専攻科長 自己点検 小委員会 委員長	<p>○教員顕彰に係る学生アンケートに加え、教員の自己評価及び相互評価を考慮した結果、教員顕彰候補者としてふさわしい教員1名を決定し、機構本部へ推薦した。</p> <p>○国立高等専門学校教員顕彰候補者に関し、教員自己評価、学生評価、及び教員間評価の3点から新たな採点方法を採用し、表彰者推薦のプロセスを見直した。</p>	Ⅲ	有
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①教務主事・教育主任による明確な責任体制のもとで、教育改善PDCAを着実に実施する。</p>	<p>●資格取得の推進</p> <p>○資格取得を奨励するとともに、必要に応じて資格教育に詳しい非常勤講師等を雇用する。</p> <p>●サマースクールや国内留学等の学生の交流活動</p> <p>○包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターシップを含め、学生の交流活動を積極的に推進する。</p> <p>○中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。</p> <p>●理工系大学と教員研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育等の連携</p> <p>○高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科と連携して、専攻科で先端工学に関する授業を開講する。</p>	教務主事 専攻科長 教務主事 専攻科長	<p>○資格取得を奨励するため、「不動産概論Ⅰ」「建築生産」を開講した。</p> <p>○資格取得に向け、一級建築士、技術士、コンクリート主任技士、公害防止管理者などの非常勤講師を採用した。</p> <p>○夏季休業期間中に、包括連携提携校の広島大学へ校外実習として4名の学生が行き、交流を図った。</p> <p>○夏季休業期間中に、中国・大連大学へ20名の学生が異文化交流プログラムとして行き、交流を図った。</p> <p>○夏季休業期間中に、ハワイ大学マウイ校へ23名の学生がUHMC語学研修ホームステイとして行き、交流を図った。</p> <p>○中国・四国地区高専専攻科生研究交流会に専攻科1年生全員が参加した。</p> <p>○高エネルギー加速器研究機構及び広島大学大学院工学研究科からの出前授業として、専攻科で先端工学を開講した。</p>	Ⅲ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
②教員の研修経費を確保し、計画的にFDを実施する。	●教員の能力向上を目的とした研修の実施 ○定期的にFD活動を実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行なう機会を設ける。 ○産業技術総合研究所関西センターが開講する組込み適塾に教員を参加させ、スキルアップを図る。	教務主事 専攻科長	○FD研修会は年6回開催し(5/1, 5/23, 9/19, 10/30, 11/20, 2/7) 述べ235人が参加した。 ○教職員間の意見交換の場として、FD研修会(年6回)及び教員会(月1回、年12回)を設けている。 ○産業技術総合研究所関西センターが開講する組込み適塾への教員参加は日程の都合で実施できなかったが、その代わりとしてルネサスエレクトロニクス社講師による公開講座「組込みシステムにおけるプログラム開発セミナー」を2日間開催し、2名の教員が参加、各自資質向上に努めた。	Ⅲ	有
	●一般科目や生活指導などに関する研修 ○教員全員と担当職員が複数のテーマによる分科会方式で参加する学生指導教職員研究会を夏季休業期間中に実施する。	教務主事 専攻科長	○「第31回学生指導教職員研究会」を開催し、教職員53名が参加した。研究会では、①教務関係②学生関係③寮務関係の3テーマについて、グループ別討議及び全体発表とディスカッションを行った。なお、研究会の結果は報告書にまとめ、教職員へ配付した。	Ⅲ	有
③中・高校教員との相互教育研修を実施する。	●公開授業への相互参加 ○近隣の中学校・高校等との公開授業による相互教育研修を行う。	教務主事 専攻科長	○近隣の公立高校の授業へ参加した。本校での公開授業は行っていない。	Ⅱ	有
④教育センターにおけるICTを活用した新たな形態の教育を実施する。	●高等専門学校の特徴を活かした教材や教育方法の開発 ○e-ラーニング、問題解決型教育(PBL)の拡大・充実を図る。	教務主事 専攻科長	○e-ラーニング推進室を中心に、e-ラーニング教材を作成し実施した。 ○全学科の1年生に対する情報リテラシーの授業内容及び授業方法をWGで検討し、実施した。 ○高専教育への導入科目「技術者入門」を開講した。	Ⅲ	有
	●企業と連携した教育コンテンツの開発可能性の調査 組み込み系技術教材を協働して開発可能な地域企業を調査する。	協働研究 センター長	○新規にルネサスエレクトロニクスと連携して、公開講座用の組込みボードを用いた教材を開発し、講座でソフトウェア開発実習に利用した。 ○組み込み系教育に関して地域企業へのアンケートを実施し、その結果をもとに教材作成をアドウェインと検討した。	Ⅲ	有
⑤協働研究センターの支援のもとで、COOPの実施を推進する。	●産学官の連携による効果的なインターンシップの実施 ○本科生の学外実習や専攻科生のインターンシップを積極的に奨励・支援する。	教務主事 専攻科長	○本科4年生169名中、124名が校外実習に参加した。 ○専攻科1年生20名全員がインターンシップに参加した。	Ⅲ	有
	●地域と連携した卒業研究の実施 ○地域に対して卒業研究を公募し、地域とともに学生教育を支援する。	協働研究 センター長	○卒業研究課題を4件選定し、それぞれ完了した。	Ⅲ	有
	●知財教育の推進 ○学生及び地域企業技術者を対象にした知的財産権セミナーを実施する。	協働研究 センター長	○機構知財担当CD及び特許庁意匠課意匠制度企画室長による知財セミナーを2件実施した。特に後者のセミナーは地域人材へも開放した。	Ⅲ	有
⑥退職技術者等を特命教員や教育協力員として採用し、多様な経験を持つ人材を教育に活用することにより教育内容を拡充する。	●企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用 ○企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授(技術アドバイザー)として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。	教務主事 専攻科長	○知的財産コーディネートを専門とする企業技術者を特命教授として雇用し、「知的財産権論」(専攻科・前期)の講義を開講することにより、効果的な技術者教育を行った。	Ⅲ	有
⑦副校長(総務企画)のもとで、JABEE認定への取組みを推進する。	●JABEE認定プログラムの更新・拡充 ○JABEEプログラムの統一に向け、準備を進める。	副校長 (総務企画)	○教育改革検討プロジェクトにより、現在検討中である。	Ⅲ	有
(5)学生支援・生活支援等 ①課外活動支援策及び学生生活環境改善策を検討・実施する	●図書館の充実や計画的な整備 ○古い図書を更新を行うとともに、図書館を教育センターの基盤部門と位置付けて整備計画を検討する。	教 育 センター長	○学生に1人1万円の予算内で自由に図書を選ばせるブックハンティングを実施した。(8/2, 11/25)	Ⅲ	有

「実施結果欄」は、Ⅰ:「実施していない。」、Ⅱ:「十分に実施していない。」、Ⅲ:「十分に実施した。」、Ⅳ:「計画を上回って実施した。」

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
②低学年次生を重点として、規律ある行動習慣を身に付けさせる取組みを強化する。	● 学生指導の取組み強化 ○「身なり指導の日」「挨拶運動」などを通して、学生に相応しい生活習慣を身に付けさせる。 ○集団活動指導者研修や文化行事を実施する。 ○規律ある寮生活を身に付けさせるために、新入寮生への指導を強化する。	学生主事	○身なり指導は、全校4回、学年別5回(1年・2年:各1回、3年:3回)を実施した。 ○挨拶運動を3回(15日)実施した。 ○文化行事(音楽鑑賞会・12/3)を実施した。	Ⅲ	有
		寮務主事	○寮生会役員による新入寮生への指導(4寮ミーティング)を週1回実施した。 ○新入寮生を指導する寮生会役員に対し、週1回ミーティングを開催し、新入寮生への指導について打合わせを行った。	Ⅲ	有
③入学から卒業まで一貫したキャリア支援教育体制を導入する。	● 学生の進路選択を支援する事業の実施と体制の整備 ○学生の進路選択を支援するため、一連の企画(SAPAR)を実施する。 ○学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムの運用を開始する。 ○就職・進学ガイダンスを実施する。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問して情報収集を行う。	教務主事	○学生の進路選択を支援するため、SAPARの一連の企画を立案・実施した。 ○学生の学習・活動を記録するキャリアプロフィールシステムを構築中である。 ○コマ大戦呉高専場所を開催するとともに、会社研究会を開催した。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社へ訪問し情報収集を行った。	Ⅲ	有
④学生相談室機能を強化する。	● メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実とともに、危機管理体制を整備する ○発達障害学生やメンタル面で支援が必要な学生に対してスペシャルサポートルームを機能させ、支援する。 ○カウンセラー講話、学生及び教職員対象の講演を実施する。特に予防的観点から、学生の状態を調査し、状態にあわせたテーマを設定する。	学生相談室長	○学生向けカウンセラー講話及び教員向け講演会を実施した。 ○機構本部より指示のあった自殺予防の取り組みの一環であるアンケートを実施し、事後対策を行った。 ○第2回中国地区高専学生相談室長会議を本校主幹で開催し意見交換等を行った。	Ⅲ	有
(6)教育環境の整備及び活用 ①学生のアイデアを取り入れた、心地よい環境配慮型キャンパスの実現を志向する。	● 教育環境に関する学生評価アンケート調査の実施 ○学生に対して、平成25年度教育環境に関する学生評価アンケート調査を実施する。	自己点検小委員会委員長	○実施した。(2月)	Ⅲ	有
②教育改善計画に沿って、教育設備の拡充・整備を行う。	● 安全で快適な教育環境及び環境に配慮した施設の拡充を実施 ○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえて整備、及び省エネ化対策を推進する。	施設部会長	○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、建築学科協力のもと施設・整備におけるマスタープラン原案を策定、また学寮地区に関しては、施設計画WGを立ち上げ、学寮、福利施設等の改修計画を策定した。	Ⅲ	有
	● 学生を対象とする安全管理講習会 ○昨年度に引き続き、外部講師による交通安全講習会を開催し、交通安全に対する学生の意識を高めるように指導する。	学生主事	○交通安全講習会を実施した。(5/10、2/27) ○3年生の合同ホームルームにて、ロイヤルドライビングスクールから講師を招き、交通安全指導を実施した。(2/5)	Ⅲ	有
	● 教職員を対象とする安全管理講習会 ○安全衛生委員会の主催による「安全に関する講習会」及び「AED講習会」を実施する。	安全衛生委員会委員長 *人事係	○外部講師による「教職員のメンタルヘルス」と題した講演を行い、延べ29名の教職員が参加し、教職員のメンタルヘルス対策について意見交換を行った。(1/29)	Ⅲ	有
③図書館棟を「教育センター」として、教育支援機能を充実させる。	● 教育支援スペースの確保 ○教材作成などが行なえるスペースを教育センター棟(図書館棟)内に確保し、支援活動を推進する。	教育センター長	○教材作成などの活動スペースを教育センター棟(図書館棟)2階に設け、eラーニングの教材作成、授業アンケートの作成と集計、SAPARの事務作業などの支援を行った。	Ⅲ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
④技術センター協力員等として、退職技術者等の企業人材を活用する。	●企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材の活用 ○昨年度に引き続き、企業人材を講師として招聘し、技術職員の研修を予算の範囲内で実施する。	技術センター長	○実施していない	I	有
⑤新センター群及び新形態の教育を実施するため、建物の改修及び室機能の再配置を推進する。	●教育センター・技術センターの機能充実 ○将来計画に沿った教育センターおよび技術センターの整備・改修を検討する。	施設部会長	○展示用のショールームをは設置した。 ○「第二実習工場」について、ものづくり工房とともに、次年度以降マスタープラン原案を策定し、関係機関と協議を行いながら、教育センター等の整備を作成の中で検討していく予定である。	Ⅲ	有
2. 研究に関する事項 ①副校長（総務企画）のもとで、科学研究費補助金獲得の支援を行うとともに、研究力強化に資する競争的資金公募事業へ計画的に応募する。	●科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスの実施 ○科学研究費補助金説明会を実施する。	協働研究センター長	○科学研究費補助金説明会を実施した。(7/10)	Ⅲ	有
	●研究活動の点検 ○教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検する。 ○「呉高専研究報告」の発刊を通じて、平成23年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認する。	自己点検小委員会委員長	○教育研究基盤校費に関する基礎調査を通じて、教員の研究活動内容を自己点検した。また「呉高専研究報告」を発刊し、平成24年度本校教職員による研究業績一覧を作成し、教員個人の研究論文数や学会発表数などを確認した。	Ⅲ	有
③教員・学生に対する知的財産教育を推進する。	●学内知財教育の推進 ○知財セミナーを実施する。	協働研究センター長	○専攻科対応で知財教育を実施した(S2前期2単位)。3月に特許庁から専門家を招いて講演会を開催した。地域企業者、教職員及び学生約40名が聴講した。(3/11)	Ⅳ	有
	●特許出願の推進 ○特許出願マニュアルを基にした学内FD講演会を実施する。	協働研究センター長	○研究指針時の特許出願にかかるフローについてマニュアルを整備し、教員会で説明した。 ○出願に関しては個別案件に対応・指導した。 ○年間行事枠の関係でFD講演会は実施できなかったが、教員会にて「知財出願までの流れ」、「外部との協働研究開始及び関連する契約に関して」、「外部からの試作依頼あるいは本校の情報提供依頼に関する契約位に関して」に関してフローチャート化した特許出願マニュアルを公表、教職員に周知徹底した。	Ⅲ	有
④研究成果を社会に積極的に発信する。	●全国高専テクノフォーラムや各種新技術説明会等での研究成果の発信 ○各種展示会に出展等を行い、本校シーズを発信する。	協働研究センター長	○研究室訪問第1弾(10/16)を実施し91名の参加者があり、第2弾(11/21)の実施では20名の参加者があった。 ○出展を行ったイノベーションジャパン(8/29, 8/30)では21000人、ひろしまIT展(10/23～10/25)では2万人、マイクロウェーブ展(11/27～11/29)では7000人の来場者があり、それぞれ成功裏にシーズを発信することができた。	Ⅲ	有
	●研究成果を発表する各種機会への出展、「技術マッチングシステム」、産学官連携コーディネーター等を活用した共同研究・受託研究の促進 ○産学連携コーディネータ等とともに県内企業のニーズを調査し、本校シーズとのマッチングを検討する。	協働研究センター長	○県内企業80社を訪問し、ニーズ調査を行った。その結果として、以下の事項で本校シーズに関するマッチングを検討した。 ・県内企業と本校「3Dプリンタ応用開発研究室」との連携。 ・公設試験場との植物工場に関する技術開発 ・県内食品メーカーとの環境水質処理に関する検討 ・県内車両メーカーとの機構的・電的性能向上に関する共同研究	Ⅲ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
	<p>●技術移転の推進</p> <p>○技術移転が可能な成果を有する教員を調査し、それらの教員を支援する方法を企画立案する。</p>	協働研究センター長	<p>○技術移転が可能な成果を有する教員を支援するための企業見学、企業訪問、企業人材との意見交換会を以下のように実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マツダ(株)を訪問し研究テーマの検討を行った。 ・前期、後期と(株)ディスコを訪問した。次年度以降も県内訪問事業を計画する。 ・企業人材を本校に招き、特定の教員によるシーズ発信を3回実施した。 ・年1回開催される広島県西部工業技術センターイベントに参加し、パネル発表を行った。 	Ⅳ	有
<p>3. 地域社会との連携、国際交流等に関する事項</p> <p>①教員間及び大学・企業技術者との協働を促す。</p>	<p>●協働研究センター等の施設や設備の充実</p> <p>○継続的に外部資金導入に努める。</p>	協働研究センター長	<p>○三機関連携のプロジェクト会議に参加して、新しい研究テーマの検討に着手した。実際の応募は平成26年度になる見込みである。</p> <p>○次年度外部資金導入に向け、本校として申請可能な補助金の調査を行った。</p>	Ⅲ	有
<p>②公開講座、研究関連講演会及び他団体企画の本校教員担当公開講座等を計画的に推進する。</p>	<p>●公開講座の参加者に対する満足度アンケート調査の実施</p> <p>○公開講座満足度アンケートを実施し、結果の精査を行う。</p>	協働研究センター長	<p>○公開講座実施時における満足度調査を集計分析した結果、満足度の平均は95.4%と高く、本校公開講座の好評度が確認された。なお次年度に向け、満足度が平均以下の内容に関しては、担当部署に改善要求を行った。</p>	Ⅲ	有
	<p>●小・中学校に対する理科教育支援の機会増大</p> <p>○公開講座、科学教室及び出前授業を企画・実施する。</p>	協働研究センター長	<p>○初めての試みとして、「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施、100名の参加があり、盛況里に実施することができた。(11/3)</p> <p>○大和ミュージアムへの理科教室(9/16、10/14、2/11、3/21)、工作教室(10/27)実施した。</p> <p>○出前授業としては小学校教諭向け1件、小学生向け1件、中学生向け7件、企業向け2件、計11件実施した。</p>	Ⅲ	有
<p>③「アガデミア」等を活用し、地域理科教育連携事業等を行う。</p>	<p>●小・中学校等との地域連携事業の推進</p> <p>○職場体験や文化行事への支援を実施する。</p>	協働研究センター長	<p>○夏季休業中に阿賀中生徒を受け入れ、インターンシップを実施した。</p>	Ⅲ	有
<p>④同窓会及び後援会との連携を強化する。</p>	<p>●卒業生の動向把握、ネットワーク構築及び活用</p> <p>○同窓会等でホームカミングデーを設定し、卒業生ネットワークの構築を検討する。</p>	協働研究センター長	<p>○卒業生ネットワークの構築を目的として昨年同様本校でホームカミングデーを実施した。またその後同窓会総会を実施し、同窓会名簿の編集を行うことが決定した。</p>	Ⅲ	有
<p>⑤国際的な教育研究交流を活発化する。</p>	<p>●海外の教育機関との国際交流やインターンシップの推進</p> <p>○新たに、低学年30名を対象に、大連大学との異文化交流を9月に実施する。</p>	国際交流室長	<p>○大連大学との異文化交流で、低学年20名が参加し、日本文化の紹介プレゼや、大連学生と一緒に大連市内の観光名所探索などを通じ異文化交流を深めた。(9/9～9/12)</p> <p>○ハワイUHMC交流研修に23名が参加し、新たに取り入れた語学研修授業への参加やホームステイを体験学習した。(9/1～9/11)</p> <p>○外務省主催の架け橋プロジェクトの北米研修に23名が参加し、日本文化を紹介する4テーマを英語でプレゼし、Cool Japanのアピールに貢献した。五重塔やカラクリ人形のプレゼは領事館での代表プレゼに選出された。(3/16～3/26)</p>	Ⅳ	有
	<p>○大連大学との双方向の学生交流を行う。</p>		<p>○大連大学との学術交流の一環で、建築学科領域について双方向で4名の学生交流を実施した。(8/18～8/28、9/2～9/15)</p>	Ⅲ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
⑥留学生受入れ拡大に関する方策を検討し、順次、実施する	<p>●外国人留学生に対する研修旅行など、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会の提供</p> <p>○里親会とも連携し、行事を行い、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供するとともに、教職員の積極的な参加を呼び掛ける。</p>	国際交流室長	<p>○国際交流パーティーを開催し、本校留学生4名を中心に学外からの参加者も含め80名を超える参加があった。(6/8)</p> <p>○北米ホイトニーヤング高校の学生21名が来校し、3泊4日のホームステイを体験した。(7/12～7/14)</p> <p>○中国地区8高専のコンソーシアム主催の留学生との交流行事に本校から留学生2名、学生12名が参加した。(10/12～10/14)</p>	IV	有
⑦地域課題解決に資する活動を行う。	<p>●地域との連携強化</p> <p>○呉地域オープンカレッジネットワーク(OCN)会議及び呉信用金庫と連携し、地域の課題解決に向けた取り組みを行う。また新たに呉市と連携し、青少年の科学教育推進も含め、市街地の活性化に全校を上げて取り組む。</p>	協働研究センター長	<p>○呉地域OCNは昨年同様に実施した。</p> <p>○呉市校長会において本校の出席授業等の説明を行った。</p> <p>○呉市街地の活性化を目的とした会合「くれ中央地区の会」に毎月参加し、活性化に向けての議論を行った。</p> <p>○呉市中心部の活性化を目的とし、「公園内あずまやが老若男女の憩いの場になるソーラーパネルシステム」の研究をスタートさせた。</p>	IV	有
	<p>●地域技術者育成への貢献</p> <p>○地域企業技術者のスキル向上を目的とし、本校教員のリソースを活用した公開講座を充実させる。</p>		<p>○建築士2級講座及組み込み系公開講座の2講座を実施した。</p>	III	有
4. 管理運営に関する事項 ①学校内の資源配分を戦略的かつ計画的に行う。	<p>●戦略的かつ計画的な予算配分の執行</p> <p>○新たな教育方法の開発又は教育プロジェクトの構築を推進するため、公募による予算配分を実施する。</p> <p>○新分野における研究開発又は学内若しくは他機関連携による研究開発を推進するため、公募による予算配分を実施する。</p> <p>○全校又は分野等を実施単位とする取組について、公募による予算配分を実施する。</p>	副校長 及び 教務主事	<p>○公募による予算配分事項については、校長裁量経費及び副校長・教務主事裁量経費に集約し効率・効果的に実施した。</p>	III	有
② 管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。	<p>●服務規律の遵守</p> <p>○新任教職員を対象者として、服務規律の遵守を図る。</p>	事務部長 *総務課長	<p>○新規採用教職員を対象としたオリエンテーションを実施(4/10)し、服務、その他、本校の概要説明を行った。</p> <p>○新規採用教職員懇談会を開催(11/25)し、教員からの要望事項を聴取し、緊急性の高いものは直ちに対処、その他の要望事項については、文書にて回答を行った。なお、この内容については教員会において全教員に報告を行った。</p>	III	有
	<p>●非常勤事務職員の能力・適性を生かした配置及び業務体制の構築</p> <p>○総務課及び学生課所属の非常勤職員に係る業務内容及び業務体制の見直し検討を行う。</p>	事務部長 *総務課長	<p>○非常勤事務職員への面談を実施し、個々の能力や適性を生かした配置及び業務内容について検討を行い、次年度秋に見直すこととした。</p>	III	有
	<p>●ガバナンス及びコンプライアンスの強化</p> <p>○幹部教職員による意見交換会にてガバナンスに係る事案共有を図る。</p> <p>○高専機構本部による「コンプライアンスマニュアル」及び「コンプライアンスに関するセルフチェック」を活用して、教職員のコンプライアンス向上を行う。</p> <p>○地元での合同避難訓練を実施予定</p>	事務部長 *総務課長	<p>○平成25年度から「意見交換会」を「運営連絡会」に名称を変更し、毎週1回(延べ45回)、校長、副校長、3主事、専攻科長、事務部長、2課長による会議を開催し、管理運営全般(危機管理、ガバナンス及びコンプライアンスの強化など)に係る情報共有を図った。</p> <p>○常勤教職員全員のコンプライアンスに関するセルフチェックの提出が完了し、その内容について問題は特になかった。</p> <p>○呉市、地域住民及び教育機関が連携した合同避難訓練については、残念ながら台風により中止となり、日程調整が困難なため、今年度は開催できなかった。</p>	II	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定
	<p>●情報管理の整備・改善 ○機構の管理システムに合わせ、本校の管理体制を整備する。</p>	教 育 センター長	○無線LANシステムの更新、及び情報の格付け作業を実施中。 ○機構ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェア管理検査を実施し、適正に管理できていることを確認した。	Ⅲ	有
	<p>●自己点検・評価体制の改善 ○教育改善PDCAサイクルの周知を図るとともに、点検・整備を行う。 ○全教員が、H24年度の活動報告書とH25年度の活動PLANを提出する。それに基づき校長面談を行う。 ○H25年度の機関別認証評価受審に向けて、対応組織を立ち上げ、自己点検・評価体制の改善を図る。</p>	教務主事	○全教員がH24年度の活動報告及びH25年度の活動PLANを校長へ提出した。提出された活動報告・活動PLANに基づき、7月から8月にかけて、校長が全教員と面談を行い、校長が各教員の教育研究活動等を把握し、改善に必要な事項をフィードバックすることにより、自己点検・評価体制の改善を図った。	Ⅲ	有
		副校長	○自己点検等管理委員会のもとに認証評価専門小委員会(第1～9部会)を設置し、対応することとした。なお、部会主査が連絡調整を行う認証評価連絡調整WGも同時に設置した。○認証評価において指摘された本校の「改善を要する点」に関し、自己点検等管理委員会を中心として改善計画中である。 ○「具体的到達目標」に関しては、教育改革検討プロジェクトにおいて検討中で	Ⅲ	有
③事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流を活用し、事務職員及び技術職員の能力向上を図る。	<p>●学校の管理運営に関する研修会等 ○機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。 ○幹部教職員による意見交換会を開催する。</p>	事務部長 *総務課 長	○機構等が主催する研修へ以下のとおり参加した。 ・国立高等専門学校機構労務管理研修:2名(校長,事務部長) ・中国・四国地区国立大学法人等労務管理連絡会:2名(事務部長,総務課長) ・中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会:1名(事務部長) ○平成25年度から「意見交換会」を「運営連絡会」に名称を変更し、毎週1回(延べ45回)、校長、副校長、3主事、専攻科長、事務部長、2課長による会議を開催し、管理運営全般(危機管理、ガバナンス及びコンプライアンスの強化など)に係る情報共有を図った。	Ⅲ	有
	<p>●事務職員及び技術職員の能力向上を図るための研修会 ○機構等の主催する研修会及び各職員が担当する業務に関する実務研修会等に参加する。 ○若手職員(採用後1年～5年程度)を中心とした学内、学外研修会を実施する。 ○e-ラーニングやグループ討論などを取り入れた新形式の学内研修について、研修方法及び内容の構築を整備する。 ○技術職員対象の各種研修会および資格取得等講習会等に、積極的に参加する。</p>	事務部長 *人事係	○主な研修として、中国地区係長研修(1名)、会計事務担当者説明会(2名)、全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会(1名)、奨学金事務新任者研修会(1名)、施設担当職員研修会(1名)等、延べ35名の事務職員が参加し、能力向上を図った。 ○若手職員を対象とした研修(SD研修会)として、職員の採用活動の活性化を図るため、外部講師による研修「職員採用活動について」を実施(11名)した。「タイムマネジメント研修」を本校が企画し、中国地区高専若手職員からも34名の参加があり、グループ討論など実践的な研修を実施した。	Ⅲ	有
		技 術 センター長	○プレス機械作業主任者技能講習以外の研修については予定通り終了した。また、プレス機械作業主任者技能講習(広島県労働基準協会)については、講習会を平成26年3月に実施しなかったため、次年度以降予定に変更した。 ○年間を通して、各種研修会に積極的に参加した。	Ⅲ	有
	<p>●事務職員及び技術職員を対象とした国立大学や高等専門学校等との人事交流 ○広島大学との人事交流規模の適正化及び高専間交流に関する検討を行う。 ○広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を実施する。</p>	事務部長 *総務課 長	○広島大学人事担当部署との連絡を密にし、本年度も事務職員の円滑な人事交流により室長クラスを1名増とした。○他省庁(総務省)との人事交流(係長級1名)にあたり、交流に係る覚書(地域手当の異動補償)を設けるなど、円滑な人事交流の促進を図った。 ○諸会議などを利用して職員の人事交流について情報交換を行い、各校とも人事交流の必要性が高いと認識していることを確認し、次年度に向けて継続して検討を行う。○広島大学と事務職員及び技術職員の長期研修交流に関する協議を行い、実施について支障がないことを確認した。	Ⅱ	有

平成25年度 自己点検・評価に係る報告書

第2期中期計画	平成25年度 年度計画	担当者	活動内容	実施結果	次年度予定		
④初任者及び転入者研修のためのe-教材等を整備し、本校の学校運営方針を踏まえた研修を実施する。	●ネットワークを利用した情報提供 ○新任教員や非常勤講師に学校の運営方針や教育研究に必要な情報をネットワークを介して提供できるように整備する。	教育センター長	○新任教員用手引き、非常勤講師用手引きをサイボウズで閲覧できるようにした。	Ⅲ	無		
5. 業務運営の効率化に関する事項 ①業務の効率化・合理化を推進する。	●事務等の効率化・合理化 ○事務・技術職員を対象とした業務の効率化・合理化に向けた改善を検討し、実施する。 ○高専機構業務マニュアル(契約・決算等)に沿った業務体制を確立し、効率化を図る。 ○事務部全体において、情報共有を行うことにより、業務重複や無駄な作業をなくすとともに業務分担等の見直しを行なう。	事務部長 * 総務課長	○管理職と職員が期首、期中及び期末に面談し、担当している業務の把握と現状分析を行い、改善に繋がる事項について意見交換し、各係で作成しているマニュアル及び業務フロー類のブラッシュアップを図っている。一部の係で超過勤務時間数が対前年度比20%減となった。	Ⅲ	有		
		事務部長 * 総務課長	○高専機構規則及び業務マニュアルの改正を的確に把握し、随時本校業務マニュアルの見直しを行い、それに沿った業務処理を実施した。 ○室長による連絡会を定期的(12回)に開催し、情報共有を図り、業務軽減を進めた。	Ⅲ	有		
②一般管理費の縮減に努めるとともに、随意契約の見直しを行う。	●一般管理費の縮減 ○不要不急な業務(物品購入・役務)の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品購入及び設備整備を推進する。 ○必要数量を的確に把握し、無駄な在庫品をなくす。 ○清掃・警備等の役務業務について、安全性を確保しつつ必要性を検討し、教育環境の改善を図る。 ○物品の稼働状況等を把握し、再利用可能なものについては、優先的に使用する。 ○物品検査を強化し稼働状況等を把握するとともに、供用・返納・廃棄処理を確実に行う。	事務部長 * 会計室長	○不要不急な業務(物品購入・役務)の仕分けを行なうとともに、環境に配慮した製品を選定及び設備整備を行った。 ○封筒・コピー用紙・文具類等、必要数量を的確に把握し、無駄な在庫が発生しないよう取り組んだ。 ○清掃・警備等の教育環境改善について、安全面に配慮しつつ、適正な仕様となるよう見直しを行い、安全な教育環境を確保した。 ○不用物品を把握し、不要物品返納の際には、備品・資産については、サイト上の高専間リユースに掲載し、他高専への照会(16件)を積極的に行った。また、取得額が低額な物品については、使用可能なものであれば、廃棄する前に学内にメール等で再利用者を捜し、可能な限り再利用を行った。再利用の件数を記入する。また、他高専への移替はあったか。	Ⅲ	有		
			●随意契約の見直し ○電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わない。 また、企画競争(総合評価・公募)についても、競争性と透明性をより高める。	事務部長 * 総務課長	○電気、ガス、水道、電話、郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約を行っていないわないようにした。 ○企画競争(4件)についても、仕様書の見直しなどを行い競争性透明性を高めた。	Ⅲ	有
			●一般競争契約における競争性と透明性の更なる確保 ○参加要件(地域・資格)緩和及び仕様内容を検討し、今まで以上に競争性を増すことによる費用削減を行う。 ○入札における質問事項について、すべての参加希望者に回答を公表する等の措置を講じることにより、透明性を確保する。 ○補正予算執行を計画的かつ、迅速に行い教育研究環境整備を行う。	事務部長 * 会計室長	○入札参加者数を増加させ競争性が増すように参加要件緩和や必要最低限の仕様を策定した。 ○入札における質問については、各社から寄せられた質問をとりまとめ、入札参加希望業者に、質問内容及び回答をメール等により送付し、透明性、公平性を確保した。 ○補正予算執行に係る納品・検収については、年度内に完了した。	Ⅲ	
●施設マネジメント、整備計画 ○施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様に省エネに努める。 ○施設・整備における長期計画の検討・制定を行う。	施設部会長	○日々の電気使用量を教職員に周知し、節電への呼びかけ(13回)を行った。 ○夏季及び冬季にはエアコン温度を適正な温度設定とするよう周知を行った。 ○施設・整備における長期計画に関しては、建築学科教員の協力を得、マスタープラン原案を策定、また学寮地区に関しては、施設計画WGを立ち上げ、学寮、福利施設等の改修計画を策定した。	Ⅲ	有			